

令和5年度 学校評価報告書

学校教育目標		友達と学び合う心豊かでたくましい子供の育成		重点目標	根拠を明確にして、自分の考えを表現し合う子供の育成 ○ 学びの基盤づくり「受けとめよう 伝えよう」 ○ 国語科を重点教科とした学習活動の充実 ○ 地域人材を生かした教育活動の工夫			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		
重点目標	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	
重点目標に関する評価	研究・研修を基盤とした授業改善と授業力の向上に努める。 規範意識を身に付け、思いやりの心をもって人と関わることができるよう努める。	○ 学習指導の充実 ・国語科における授業の初めに音読を位置付ける。 ・授業において「課題をもつ」「見通しをもつ」「自分の考えをつくる」「考えを高め合う」活動が設定された学習活動による授業構成  ・学力アップ非常勤講師を活用したTT学習及び習熟度別学習の実施	・国語科学習(読むこと)の導入時の音読実施率(90%) <small>(教師の実施状況の聞き取り)</small> ・主題研究に関するアンケート評価 <small>(児童評価)</small> (3.2pt以上 4段階評価) ①「自分の考えを書くこととする」 ②「理由を付けて自分の考えを発表」 <small>(教育活動評価)</small> (3.2pt以上 4段階評価) 「粘り強く考え、自分の考えを書く」 「交流による考えの広がり・深まりのある学習」 ・市販の単元テスト到達度80点以上の割合(国語・算数:75%以上)	2	△各担任への徹底不足のため、実施率が低くなっている。音読の効果をさらに共通理解する必要がある。 ○主題研の目指す子ども像「根拠をもつて考えを表現する子」の育成は指導の徹底が図られており、目標を概ね達成できている。 △一律的な指導を行っており、個に応じた手立ての工夫が行えていなかった。	A	・自己評価は適切である。 ・担任にも児童にも周知を徹底すれば、導入段階で確実に実施は可能であると思う。 ・自己評価は上方修正すべきである。 ・指標の①②は十分達成できている。 ・子供たちの様子からも、根拠をもつて発表している姿が見られるので、評価を上げていいと考える。 ・先生方の頑張りによく見られる。	・年度当初に国語科の授業の導入段階での音読実施について再度共通理解し、授業中の時間配分の工夫を行うとともに、実施したかどうかの記録を取るよう工夫する。 ・算数科の授業改善案として、児童が問題解決するような授業づくりを目標に、課題に対して、ペアやグループで議論しながら検討して解決していく授業を行う。 ・市販テストの目標値を単元初めに設定して学習を実施し、指導内容の充実を図った授業実践を行う。 ・読書量については目標値の設定を検討するとともに、各児童に読書に関する目標設定を自己決定させ、その達成度とする。 ・読み聞かせボランティアの方と連携して、今後も取組を継続していただくようお願いする。 ・羽山っ子タイムの確実な実施に向けて校時程の工夫を行う。
		○ 読書活動の充実 ・図書室利用による本に親しむ態度の育成 ・読書ボランティアによる定期的な読み聞かせ活動の実施	・年間読書冊数 昨年度より増えた児童数(60%以上) ・読書ボランティアによる読み聞かせの実施(年8回以上)	2	△国語は主題研究において研究を進めている成果が見られるが、算数は授業改善が大いに必要である。 △読書に対する意識の格差が見られる。高学年は量より質が重要である。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・算数科は、重要な教科であるため、今後の授業改善の成果を期待している。 ・自己評価は上方修正すべきである。 ・読書ボランティアの方の継続的な活動によって、国語力が定着している点はいい。目標値の設定を見直すべき。	・読書量については目標値の設定を検討するとともに、各児童に読書に関する目標設定を自己決定させ、その達成度とする。 ・読み聞かせボランティアの方と連携して、今後も取組を継続していただくようお願いする。 ・羽山っ子タイムの確実な実施に向けて校時程の工夫を行う。
		○ 家庭学習の習慣化 ・家庭学習強化旬間(年3回)の実施	・各学年目標学習時間の実施率(80%以上) ・ <small>(教育活動評価)</small> 「羽山っ子タイムの計画的活用による学力の基礎の定着」の項目(3.2pt以上 4段階評価)	1	○読書ボランティアの方々が毎月実施していたが、朝から心温まる時間となっている。 △家庭学習の定着及び継続できる工夫が必要である。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・比較対象を設定して伸びで評価するといいたい。 ・自己評価は上方修正すべきである。	・学級活動における話し合い活動を通して学級力を高める活動の確実な実施と、児童の学級での満足度を図り、指導改善を行う。
		○ 教育課程外の時間を活用した基礎的・基本的事項の習熟に向けた取組を行う。 ・羽山っ子タイムの計画的実施	・ <small>(教育活動評価)</small> 「学級活動の計画的な実施、自己肯定感や連帯感を高める取組」の実施(3.5pt以上 4段階評価)	2	△朝の出欠の確認等で実践できていない学級が多いため、取組の時間帯や方法の改善が必要。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・実施の時間帯の見直し等で改善が図られる部分であると思う。	
		○ 集団生活を高める学級活動の充実 ・道徳科や体験的活動等と関連させた指導計画の作成 ・児童の自発的・自治的な活動の実施		2	△児童の頑張りをどこで見取り、どのように評価するかが不明確な中で実践している。児童との打合せのマネジメントが必要である。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・自己肯定感の低さの原因を探ることが大切であると考えます。	
	運動・食事・睡眠を大切にされた生活習慣を定着させ、健やかな心と体を育成する。	○ 定期的な運動の実施による体力向上 ・おおむたっ子チャレンジカードの活用 ・スポコン広場への参加及び取組の継続 ○ 教育課程外での体力向上の取組の実施 ・全員外遊びの奨励(週1回以上)	・おおむたっ子チャレンジカードの活用(100%) ・スポコン広場1種目以上の実施(100%) ・ <small>(教師アンケート)</small> 全員外遊びの奨励(週1回以上:80%以上)	3	○取組はできている。更なる効果を上げるために、年度当初からの計画的実施により効果が高まると考える。 ○全員外遊びは積極的に実施できている。体力向上を支える基礎になっている。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・目標値は達成できているので、評価を上げていいと思う。 ・自己評価は上方修正すべきである。 ・目標値は達成できている。成果として捉えていいと考える。	・年度当初に、おおむたっ子チャレンジカードについて共通理解し、授業の導入段階で準備運動の一環として縄跳びを取り入れる。 ・全員外遊びの日に長縄に取り組むなど効果的に実施する。
いじめ防止	いじめの未然防止・早期発見に向けた組織的な取組を行う。	○ 指導の充実 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく職員研修の設定 ・児童間の共感的人間関係の浸透 ・本年度の合い言葉「受けとめよう 伝えよう」の教育活動での実践	・いじめの認知件数の確実な把握及び解消した件数の割合(100%) ・ <small>(学校生活アンケート)</small> 「友達との関係」(1.2以上 -2~2評価) ・ <small>(教育活動評価)</small> 「きまりの必要性の理解と指導」(3.5pt以上 4段階評価)	4	○年度当初のいじめの定義やいじめ認知に関して、生徒指導要領を活用して研修を実施したことで、いじめの実態の把握及び対策、指導の徹底はできている。 ○友達との関係性は良好である。 △全校共通の指導項目を随時確認しているが、指導の見取りとそれに対する徹底が不十分である。	A	・自己評価は適切である。 ・何か起きたときの対応がとても早く、大変ありがたいことだ。 ・自己評価は適切である。 ・学校という社会生活の中で、友達との関係性が良好であることは何よりの結果である。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを今後も積極的に活用して、教職員からの相談もさらに行えるようコーディネートする。 ・各種アンケートの実施並びにその結果のフィードバック速度を上げ、児童への支援に生かしていく。 ・保護者アンケートは今後も紙ベースで行い、確実に実施していく。
		○ アンケートによる定期的な調査の実施と相談ポストの活用 ・学校生活アンケート(年3回) ・生活アンケート(年9回) ・家庭用早期発見シート(年3回)	・学校生活アンケート、生活アンケート結果を基にした児童への聞き取りや支援の実施率(100%) ・保護者早期発見シート回収率(90%)	4	○学校生活アンケートからのいじめの訴えに対する教育相談はできている。 ○保護者早期発見シートも回収率は100%である。	A	・自己評価は適切である。 ・先生方のアンテナがしっかり張られている。大きな安心感を感じる。	
不登校防止	不登校の未然防止や不登校に対するきめ細かで持続的な支援を行う。	○ 家庭・関係機関との密な連携 ・長期欠席児童とのつながり強化の取組 ・「福岡アクション3」に基づく関係機関と情報共有した組織的な取組	・ <small>(学校生活アンケート)</small> 「学習は楽しい」の項目(3.5以上 4段階評価) ・長期欠席児童の登校傾向への改善(欠席日数の減少:オンライン授業等の取組)	3	△「分かる・できる」学習づくりの工夫が必要である。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・ほぼ達成できていると思う。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを今後も積極的に活用して、児童・保護者の不安や悩みを少しでも軽減して、安心して学校生活等を送ることができるようになる。
			・ <small>(学校生活アンケート)</small> 「福岡アクション3」に基づく関係機関と情報共有した組織的な取組	4	○長期欠席であった児童へオンライン授業を提案し、実践し、登校日数が増加した児童もいる。	A	・自己評価は適切である。 ・オンライン授業をきっかけに、児童が登校できているのは素晴らしいことだ。	・長期欠席児童への対応を再検討し、オンラインの実施を推進する。
			・ <small>(学校生活アンケート)</small> 「福岡アクション3」に基づく関係機関と情報共有した組織的な取組	4	○スクールカウンセラーへ児童・保護者を積極的に繋いで不安解消に向けて取り組んでいる。	A	・自己評価は適切である。 ・いろいろな窓口をオープンにされているところは評価できる。	
働き方改革	教職員が児童と向き合う時間を十分に確保して、学校教育の質を維持・向上を図る。	○ 教職員の意識改革 ・時間外勤務時間の把握と縮減 ・週1回の定時退校日の設定 ・水曜日の研修・会議の工夫	・超過勤務時間45時間以内(80%) ・規定日の定時退校の実施 <small>(教育活動評価80%)</small> ・研修や会議内容の精選 <small>(教育活動評価80%)</small>	2	△超過勤務時間の目標達成が不十分である。一部の職員の意識改革が必要である。 △定時退校日に残る傾向がある。業務マネジメントの共通理解が必要である。	A	・自己評価は適切である。 ・先生方のやる気を損なうことなく、働き方改革を浸透させていくのは難し <del>い</del> さがある。取組方の改善・工夫が必要である。	・校務分掌を見直し、業務量の偏りを改善していく。 ・毎週水曜日は定時退校日ということを再度確認する。 ・研修内容で必要なもの(不祥事防止)は必ず実施し、意識の高揚を継続させる。
		○ 業務改善の推進 ・水曜日の研修日程や内容の精選 ・職員会議や各種部会の内容の精選	・研修内容の満足度 <small>(教育活動評価80%)</small> ・会議時間の短縮(水曜日の実施80%)	3	△研修や会議内容はかなり厳選しているが、内容の満足度を上げる必要がある。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・普段の努力の成果が子供たちの姿で表れていると思う。	・運動会前のはやマッスル隊の活用を継続しつつ、1学期にも協力依頼を行い、学校環境整備を行う。
		○ 地域ボランティア・保護者ボランティアとの協働活動の実施	・教師による朝の見守り・挨拶活動の実施と、はやマッスル隊による学校環境支援活動の実施(年2回)	3	○教師による朝の見守りは毎月必ず実施できた。はやマッスル隊との連携をさらに密にする必要がある。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・地域はとても協力的で、効果的に連携が進んでいると思う。	

◇ 評価について  
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)  
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである